影か柳か

今坂柳二

さて、ここにヤマカゲ中納言と申すお方がございまして。いや、正しく言うなら『なかの ものまうす つかさ』でありますが、朝廷から与えられた仕事は大納言と同様、天皇の近くにあって大政に参画する尊いお方とされます。いやいや、このお話は、お隣の爺さまからの受け売りでありまして、それさえ何処をどうして伝わってまいったもんやら、草葉の露に等しい、はかない話なのでありまする。ですが、誰でもよろしい、この話に節を与えて唄うのを聞くなら、義太夫、長唄、浄瑠璃にも肩を並べるような語り芸に、きっと相成りますぞ。何なに、隣の爺の話は、そんなに面白いか。それほどなら、わしらの勝手節でやったって面白えはずじゃ。試しに口クスケ、お前やってみろい。な。

オーオー、オリャー。

頃はと問えば秋の暮れ、奥州道は紅葉の、　オー、
錦つなげしごとくにて、雁が北へと帰る日を、　オーオー
シナノ坂へとさしかかる。　オー
牛車を守る付き人は、ヒーフーミーと数うれど、影も合わせて十余人、　イヤー
ワダチも土にめり込んで、　イヤー
ひとムチくれるも牛車は牛車、ギギギ、ギギギとめり込むばかり、　オーーオーリャー
信濃坂とは欅坂、右手の山はボサ山で、向いは暗い藪っかさ。
恐れ多くも、ヤマカゲの中納言さまなろうとも、膝にお孫をかきいだき、柳にまごう八の字の鬚身を寄せ合うて、抱き合うて、　オーオー、イヤー
そのときまわりの大木の、影をはがすが如くして、立ち現れし山賊野盗・・・・
ここまで語ればお分かりじゃろう。
草履はく手も忙しく、命からがらヨロヨロヨロと、下の里へと逃げ込みぬ。
その後をハショッて語るとすれば、
十にも充たぬ孫のため、かたえの寺の御仏にお預けされたと言うことじゃ。
ナムナムナムの語り節、高野の山に伝われる、石童丸の哀れにも、
どこか似通うわが里の　葉かげに灯る　蛍草
これにて、しめえといたしまする。

いまさか　りゅうじ
狭山市笹井在住。　二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。
かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

編集後記

童句振興協会・理事の広沢一岐さんの急逝は突然で、残念な知らせ。会報でも寄稿や、助言でお世話になりました。私としては入曽地域の歴史歩きで、大きな声で、「お玉地蔵」や、ゆかりの地を案内資料も見ず、由来を語って下さった郷土愛に満ちた語りが印象にあります。ご冥福をお祈りします。

芸術祭、ミュージカル終演後、満席の人達がロビーで、出演者と、いつ迄も話をしてごった返しているのを見て、感激しました。　（高沢正夫）